

今週の話題

## &lt;世界ポリオ根絶計画独立モニタリング委員会第6回会議&gt;

独立モニタリング委員会(IMB)は世界保健総会の要請に基づき、2010年から2012年にわたる世界ポリオ根絶計画(GPEI)の監視と推進を行うため2010年11月に設立された。この計画の目的は2012年末までに国際的なポリオの伝染を終息させることである。第6回IMB会議が2012年5月15日~17日に英国のロンドンで開催された。以下がその会議報告の要約である。

1. インドにポリオはもはや存在しない。2012年の始めから、アンゴラあるいはコンゴ民主共和国におけるポリオの症例は報告されておらず、チャドでは3例のみ報告された。パキスタンで、2012年1月~4月に報告された症例数は、2011年の同じ時期と比較して半分だった。しかし、アフガニスタンとナイジェリアでは、2011年の同時期よりも多くの症例が報告されている。
2. 6カ国で270万人の小児がポリオワクチンの単回投与さえ受けていない。そういった小児がなぜ見逃されているのかを明らかにし、早急に正しい処置を行うべきである。
3. 資金の不足によってポリオウイルスの根絶が全うされない恐れがある。また、保護されたと考えられている小児が住む国々の間で、近い将来爆発的な感染の復活が起こるかもしれない。
4. 以下の問題については、GPEIが緊急に対策をとり危機を防がなければならない。
  - ・十分に資金がなければ国際的なポリオの根絶に到達することはできない。現在、ワクチンの接種活動は財政危機によって中断され、感染が再燃するリスクが高まりつつある。
  - ・最近、根絶活動への参加や資金の提供が安定していない。第65回世界保健総会において、ポリオの感染状況は国際的な緊急事態であると宣言された。IMBは、ポリオ根絶という目標に向かって、国々がもう一度協力することを望んでいる。
  - ・高レベルのワクチン接種と感染の監視があらゆる場所で行われるべきであるが、それぞれの地域は必要レベルまで改善していない。
  - ・出資者は2012年以降にどういったことが計画されているのか知らなければならない。これは広範で複雑な問題である。ポリオ根絶計画は現在進行中であるが、IMBはこの計画によって、必要である重要な本質が十分理解されたとは断言できない。
  - ・爆発的な感染の拡大が計画に大きな影響を与えるので、感染拡大をなくすためのより革新的な対策が必要である。
  - ・計画が独立しすぎている。ポリオ根絶チームによって見逃されてしまった小児は別の事業によって保護されているかもしれない。より強く、より効果的な協調が感染の終息をもたらす。
5. IMBは、ポリオウイルスにとっての「聖域」に注目している。地理的に散在している「聖域」では、ワクチン接種を受けていない小児が多く、容易にウイルスが増殖する。こういった場所の小児には特別な計画実施とそのための決意・決断を要する。
6. 現在の重大な懸念は、アフガニスタンとナイジェリアに存在する「聖域」である。
  - ・アフガニスタンでは、以前は感染対策の不十分さが多くの感染の理由であった。最近は対策に改善の兆候がみられるにも関わらずポリオ患者が増加していることが問題となっている。
  - ・ナイジェリアは3タイプのポリオウイルス感染が起こっている唯一の国であり、近隣諸国の多くは感染拡大が起こりやすい。これらの国々も含め、国際的なリスクとなっている。
7. IMBは、世界ポリオ根絶計画が達成されていないと結論づけたが、残りの6カ月でその事業は更に強化されることとなった。さらに貴重なこの機会を利用するために、7つの勧告を作成した。
  - i) 国際ポリオパートナーズグループは緊急の会合を開き、ワクチン接種活動を再開させるための資金を動員するべきである。
  - ii) ポリオ監視委員会は、計画の改善に役立てるために継続的な効果の報告を行うべきである。
  - iii) ポリオ根絶計画の戦略は、公共と専門家の協議のために早急に公表されるべきである。
  - iv) 西アフリカ地域におけるポリオワクチン接種計画は食糧危機や紛争に対する人道支援などと統合して実施するべきであり、全ての関連する計画は緊急に調査する必要がある。
  - v) 環境試料中にポリオウイルスが存在する場合、爆発的な流行に備えた対策を実施しなければならない。
  - vi) ポリオの影響を受けている国からの旅行者には正式なワクチン接種の証明書を携行させるよう、国際保健規制が危機管理計画を早急に作成すべきである。
  - vii) 今後は、ワクチン接種から見逃されている小児の数が重要視されるべきである。

IMBは国際的なポリオの伝染根絶に向けて、今後も率直で独立した評価を続ける予定である。次回のIMB会議は2012年10月29日~31日にイギリスのロンドンで開催される。

<メジナ虫症の月間報告 2012年1月~4月>メジナ虫症の推移をモニターするために、国際的なプログラムによって報告された症例数はWHO疫学週報に定期的に掲載している。表:メジナ虫症の症例報告数 2012年1月~4月、図:世界におけるメジナ虫症の症例報告数 2008年~2012年 (南佳織、長尾徹、塩谷英之)